

地域公共交通確保維持改善事業に関する自己評価について

令和 6 年度地域公共交通確保維持改善事業の自己評価について、中部運輸局へ別紙のとおり報告します。

◇事業評価について

中津川市では、国土交通省の「地域公共交通確保維持改善事業」を活用して、公共交通の確保維持に取り組んでいます。国の地域公共交通確保改善事業による支援を受けた事業については、毎年度、公共交通会議自らによる事業の実施状況の確認、自己評価を行い、その結果を地方運輸局に報告することとされています。

◇事業期間

令和 5 年 1 0 月～令和 6 年 9 月

◇自己評価資料について

- | | |
|-----------------|----------------|
| ①自己評価（一次評価）作成様式 | ・・・別添 1、別添 1－2 |
| ②第三者評価委員作成様式 | ・・・中部様式 |

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月15日

協議会名:	中津川市公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

A : 運行割合100% B : 運行割合90～99% C : 運行割合～89%	A : 達成率100%～ B : 達成率90～99% C : 達成率～89%
--	--

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
北恵那交通株式会社	【福岡地区】 福岡線	【福岡地区】 ・地区バス検討会議を開催し、意見交換を行った。 【坂下地区】 ・地元と協議を重ね、R4.10から路線、運行日等を見直した。 ・変更について広報を活用しながら地域に周知し、利用を呼びかけた。	A 運行は計画どおり適切に実施された。 【計画運行回数】 1,196回 【実績運行回数】 1,196回 【運行割合】 100%	A 【定量的達成状況】 ・利用者は基準年度(2021)以上とする。 目標／476人以上 実績／621人(達成率130.5%) 【考察・利用状況】 ・路線・運行方式を再編し、目的地デマンド型にしたことにより、利便性が向上し、利用者数が増加した。 ・時刻表を全戸配布し、認知度向上を図った。	・目標値を上回っているが、新型コロナウイルス感染症拡大前の数値には回復していないため、今後もおでかけレパートリーの作成・発信等を通じてバスの周知を行い、推移を見守る。
北恵那交通株式会社	【坂本・中津地区】 坂本三坂線	【坂本・中津地区】 ・バスに試乗し、実際の利用状況を調査した。 【地域公共交通計画との関連】 ・地域公共交通計画に基づいて事業を実施した。特に生活交通確保維持改善計画に関係する主な事業は次のとおり。	B 運行はおおむね計画どおり適切に実施された。(夏祭りによる運休あり) 【計画運行回数】 1,459.5回 【実績運行回数】 1,456.5回 【運行割合】 99%	A 【定量的達成状況】 ・利用者は基準年度(2021)以上とする。 目標／15,250人以上 実績／21,433人(達成率140.5%) 【考察・利用状況】 ・順調に運行・利用されている。 ・沿線企業の通勤での利用も多く、今後も運行状況を継続的に把握していく。	・東鉄バス中津川線(中津川駅前～美乃坂本駅前～恵那駅前)の廃止によりR3.4から運行を開始した。 ・順調に運行・利用されており、運行状況の継続的な把握により、更なるサービス向上に努める。
北恵那交通株式会社	【坂本・中津地区】 坂本三坂線(市民病院経由)	①高校生のバス通学を支援します(計画P14参照) →補助金の拡充について、広報等を活用して周知し、多くの生徒に利用された。 ②公共交通の運行を継続します(計画P.18参照) →補助対象系統を含め、市内9地区でコミュニティバスを運行(補助対象系統は4地区12系統) ③公共交通の利用促進に向けた取り組み(計画 P.25参照) →既存路線バスを活用した観光商品開発を行い、デジタルチケットを導入した。 →中津川駅前と苗木城バス停のフリー乗車券を引き続き発売。地域資源との連携につながる路線となった。	A 運行はおおむね計画どおり適切に実施された。 【計画運行回数】 241回 【実績運行回数】 241回 【運行割合】 100%	B 【定量的達成状況】 ・利用者は基準年度(2021)以上とする。 目標／3,115人以上 実績／2,921人(達成率93.8%) 【考察・利用状況】 ・病院利用により、昨年度より実績が増加した。(2,018⇒2,921)	
株式会社サカガワ	【坂下地区】 上野線		A 運行は計画どおり適切に実施された。 【計画運行回数】 121.5回 【実績運行回数】 121.5回 【運行割合】 100%	A 【定量的達成状況】 ・利用者は基準年度(2021)以上とする。 目標／1,027人以上 実績／1,189人(達成率115.8%) 【考察・利用状況】 ・昨年度から利用人数が増加している。下小野沢から乗車する中学生が利用している他、坂下駅前で降車する定期利用者がいる。	・早朝の便であるため、中学生の通学に利用され、通学者の増減が、そのまま利用者の増減に直結する。 ・上野地区は今後も数年間人口が増え続ける見込みなので、好調に利用される見込み。 ・引き続きバスが利用されるよう推移を見守る。
株式会社サカガワ	【坂下地区】 上野線(きりら坂下経由)		A 運行は計画どおり適切に実施された。 【計画運行回数】 102回 【実績運行回数】 102回 【運行割合】 100%	C 【定量的達成状況】 ・利用者は基準年度(2021)以上とする。 目標／1,027人以上 実績／100人(達成率9.7%) 昨年実績／182人 【考察・利用状況】 ・火木運行のため、従来の「上野線」と比べ、利用者は少ない。 ・高齢者などの日中の買い物のために利用されている。	・高齢者等が日中の買い物のために利用できる路線であり、R4.10から運行開始したもの。 ・目標値は従来の「上野線」と同様にしていたため、昨年実績と比較(54.9%)。 ・減少は利用者の入所等が原因と考えられるが、おでかけレパートリーの作成・発信等を通じて新規利用者獲得に努める。
株式会社サカガワ	【坂下地区】 上野・外洞線		A 運行は計画どおり適切に実施された。 【計画運行回数】 243回 【実績運行回数】 243回 【運行割合】 100%	B 【定量的達成状況】 ・利用者は基準年度(2021)以上とする。 目標／1,656人以上 実績／1,603人(達成率96.8%) 【考察・利用状況】 ・例年通り下校の児童・生徒の利用が多く、一般に利用される方は少ない。	・主に帰宅する小中学生のスクールバスとして利用されている。 ・児童生徒の利用が多い系統であり、引き続きバスが利用されるよう推移を見守る。
株式会社サカガワ	【坂下地区】 上野・外洞線(短縮ルート)		A 運行は計画どおり適切に実施された。 【計画運行回数】 121.5回 【実績運行回数】 121.5回 【運行割合】 100%	A 【定量的達成状況】 ・利用者は基準年度(2021)以上とする。 目標／1,989人以上 実績／2,126人(達成率106.9%) 【考察・利用状況】 ・昨年度に比べ利用人数は増加している。 ・例年通り、下校の児童・生徒の利用が多く、特に週初め月曜日は一斉下校のため多い。 ・一般に利用される方は少ない。	
株式会社サカガワ	【坂下地区】 上野・合郷線		A 運行は計画どおり適切に実施された。 【計画運行回数】 282回 【実績運行回数】 282回 【運行割合】 100%	C 【定量的達成状況】 ・利用者は基準年度(2021)以上とする。 目標／455人以上 実績／171人(達成率37.6%) 昨年実績／229人 【考察・利用状況】 ・駅前または診療所前から乗車する利用客が毎月一定数おり、定期的に利用されている。 ・毎日運行から月水金運行になったことで、目標値は未達成。	・地域からの要望を受け、道の駅、商業施設、病院近くに停車するようR4.10に運行ルートを変更した。 ・昨年実績と比較しても利用はかなり減少している(70.7%)。 ・金曜日は、商業施設から送迎の無料バスが出ているため、利用が少ない。 ・減少は利用者の入所等が原因と考えられるが、おでかけレパートリーの作成・発信等を通じて新規利用者獲得に努める。

株式会社サカガワ	【坂下地区】 外洞線(上り)	A	運行は計画どおり適切に実施された。 【計画運行回数】 242回 【実績運行回数】 242回 【運行割合】 100%	A	【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(2021)以上とする。 目標／1,635人以上 実績／2,973人(達成率181.8%) 【考察・利用状況】 ・昨年度と比較し増加傾向にある。 ・児童生徒は下握バス停より乗車し、朝の登校の際に利用されている。	・沿線に住む小中学生の数により、毎年利用人数が変動する路線である。引き続きバスが利用されるよう推移を見守る。
株式会社サカガワ	【坂下地区】 外洞線(上り)(きりら坂下経由)	A	運行は計画どおり適切に実施された。 【計画運行回数】 121回 【実績運行回数】 121回 【運行割合】 100%	C	【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(2021)以上とする。 目標／1,635人以上 実績／289人(達成率17.7%) 昨年実績／296人 【考察・利用状況】 ・高齢者などの日中の買い物のために利用されている。	・高齢者等が日中の買い物のために利用できる路線であり、R4.10から運行開始したもの。 ・昨年実績と比較し、利用は維持されている。 ・引き続きこの利用が維持されるよう推移を見守る。
株式会社サカガワ	【坂下地区】 外洞線(下り)(きりら坂下経由)	A	運行は計画どおり適切に実施された。 【計画運行回数】 121回 【実績運行回数】 121回 【運行割合】 100%	C	【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(2021)以上とする。 目標／261人以上 実績／121人(達成率46.4%) 昨年実績／176人 【考察・利用状況】 ・駅前または診療所前から乗車する利用客が毎月一定数おり、定期的に利用されている。 ・毎日運行から月水金運行になったことで、目標値は未達成。	・地域からの要望を受け、道の駅、商業施設、病院近くに停車するようR4.10に運行ルートを変更した。 ・昨年度と比較しても、利用はかなり減少している(68.8%)。 ・金曜日は、商業施設から送迎の無料バスが出ているため、利用が少ないものと考えられる。 ・利用減少については他に利用者の入所等が原因と考えられるが、おでかけレパトリーの作成・発信等を通じて新規利用者獲得に努める。
株式会社サカガワ	【坂下地区】 西方寺・握・高部線	A	運行は計画どおり適切に実施された。 【計画運行回数】 204回 【実績運行回数】 204回 【運行割合】 100%	C	【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(2021)以上とする。 目標／404人以上 実績／184人(達成率45.5%) 昨年実績／220人 【考察・利用状況】 ・毎日運行から火木運行になったことで、目標値は未達成。	・昨年実績と比較すると、少し減少している(89%)。 ・おでかけレパトリーの作成・発信等を通じて新規利用者獲得に努める。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和7年1月15日

協議会名：	中津川市公共交通会議
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	中津川市は岐阜県の東南端に位置し、山間部に集落が点在する中山間地域で豊かな自然と美しい景観に恵まれたまちです。 市の東南部にJR中央線を有するが、中心地域以外は路線バスがほぼ唯一の交通手段となっています。しかしながら、自動車利用の増加に加え、人口減少や少子高齢化によって公共交通の利用者が減少していること、また運転手不足の影響により、交通事業者の経営努力だけでは公共交通網の維持が困難になりつつあります。 地域の交通体系におけるマイカーの重要性を認識しながら、利便性が高い公共交通ネットワークを実現し、複数の交通機関が役割を分担し、誰もが行きたいときに行きたい場所に行ける持続可能な公共交通網の構築を目指します。

令和6年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価
(及び地域公共交通計画の評価結果) 概要 (全体)

中津川市公共交通会議 (中津川市)

平成20年6月4日設置

令和3年6月18日 フィーダー系統 確保維持計画策定

令和4年1月20日 中津川市地域公共交通計画へ移行
(計画期間：平成30年4月～令和9年3月)

令和7年1月17日 令和6年度評価結果送付

評価対象の地域公共交通確保維持事業
・地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

中津川市の地域公共交通を取り巻く課題

①利用者の減少で地域公共交通網の維持が困難に

- ✓ 人口減少・高齢化（国調△2,313人、高齢化率32.9%）
- ✓ 東濃鉄道(株)が市内から撤退
- ✓ 路線により利用の差が激しい

②誰もがわかりやすい公共交通となっていない

- ✓ バスによるおでかけ情報発信が不十分

③運転手不足で地域公共交通網の維持が困難に

- ✓ 運転手高齢化、現役世代引退後に労働力不足の恐れ

中津川市地域公共交通計画（2022.1改定）

■基本方針

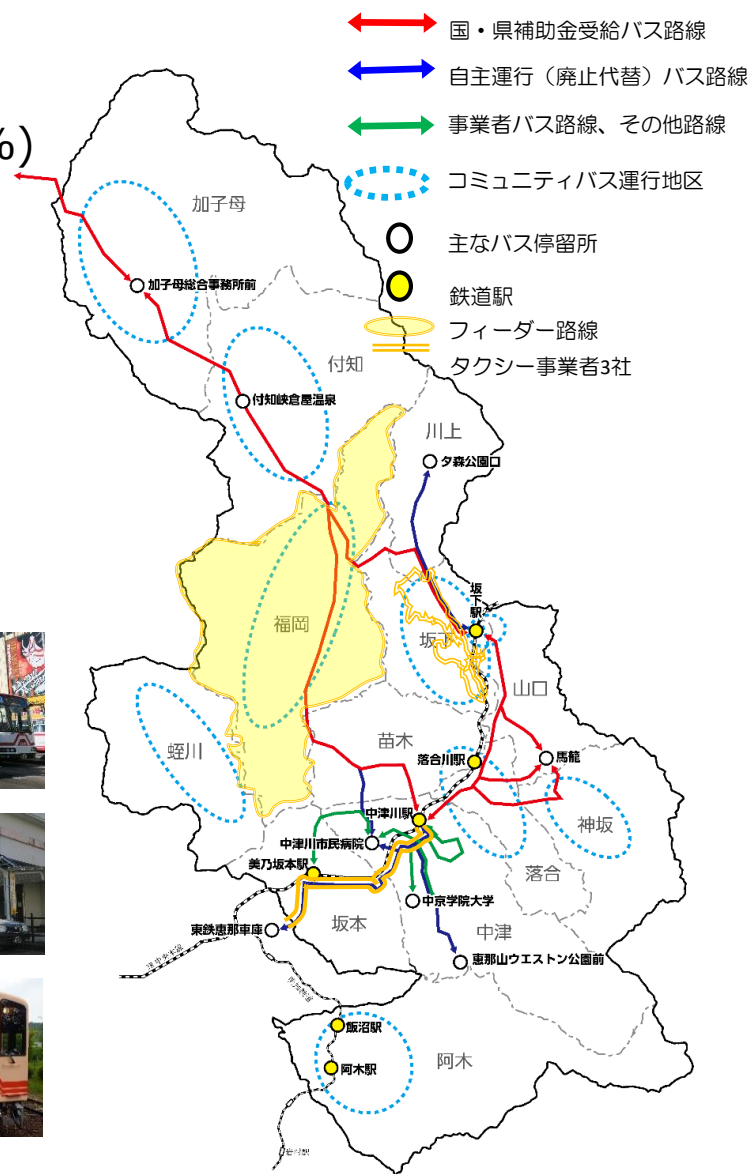
- ✓ 住んでよかった、住んでみたい街に

■目標

- ✓ 住み続けられる街に
～定住を支える公共交通
- ✓ 来てよかった、また来たい街に
～観光と利用促進
- ✓ 運転手不足解消に向けて
～誰もが活躍する街に

■期間

- ✓ 2018年度～2026年度までの9年間



目指す姿とは 利用者を確保し地域公共交通網を維持。公共交通で安心して移動できる。そして…
いつまでも定住できる街に！住みたくなる街に！

■ 地域公共交通計画に基づいて実施する20事業

目標	計画で掲げる主な事業
①定住を支える公共交通	高校生バス通学支援、地域公共交通の運行継続、明知鉄道の運行支援、安全安心なバス停環境の整備 など
②観光と利用促進	公共交通を使った市内観光の推進、おでかけ情報の発信、インターネットによる経路検索の充実 など
③運転手不足の解消	運転手採用相談会 など

■ 2023-2024年度に実施した主な取り組み

★大集合！はたらくのりもの広場

②利用促進 公共交通に親しむ機会を創出！

- 子ども連れの親子をメインターゲットに、バス、タクシーの運転席の乗車体験、写真撮影ができるイベントを実施。
- 公共交通をPRするグッズの配布、事業者による求人募集も行った。

実績 令和6年10月6日（日）に実施（10月六斎市の開催日）
市内交通事業者（4社）が協力
228家族 684人が来場



今後 アンケートから、「子どもが喜んだ」「今後もやってほしい」という意見が多かった。
イベントの内容や開催場所を検討しながら、**今後も定期的なイベント**としたい。

★神坂地区コミュニティバスの利用増！

①定住を支える 通院・買い物に便利な路線に！

- 北恵那バスの迂回運行により、一時的に**神坂地区から市街地に向かう公共交通がなくなる**。
➡ 神坂地区コミュニティバスを令和6年1月に**神坂地区と落合地区を繋ぐ路線に再編**。
➡ 落合診療所までの利用により、**利用者が急増**した。
- 地域の声を聞きながら、4月から帰り便も新設。
より**利用しやすい路線に再編**した。

実績	R4年度	R5年度	R6年度
	6人	0人	81人

急増 

※バス事業年度（10月～9月）
今後 今後も地域の声に耳を傾けながら、ニーズのある目的地の設定、利用しやすい時間帯の設定等、柔軟に対応していく。
神坂スマートIC開通後も、地域の公共交通として維持していく。

■ 地域公共交通計画における評価指標の考え方

- ✓ 地域公共交通計画に基づく各種事業実施を通じ、
 - ①いつまでも中津川市に住み続けられる（高校生が自宅から通うことができる）
 - ②住民や来訪者による公共交通利用者を確保することを定量的に示す評価指標を設定している。
- ✓ 毎年度、評価数値に対する実績の評価、考察を行う。

■ 地域公共交通計画における定量的な評価指標

定量的な評価指標		①北恵那バス路線沿線地区内の高校生バス通学割合	②住民1人あたりの公共交通年間利用回数
基準年度	2021年度	25.3%	6.7回/人
目標年度	2026年度	25.3%以上	6.7回/人以上
実績【評価】	2023年度	26.0%【達成】	8.8回/人【達成】
	2024年度	25.5%【達成】	9.6回/人【達成】
参考 ※地域公共交通網形成計画目標値	2016年度	30.6%	8.6回/人
考察		- 加子母、付知地区において保護者会の定期購入者の割合が減っている（41.5%⇒34.6%）。一方、保護者会以外の定期購入数は増加（55⇒66）。 - 定期代が家計の大きな負担になっていることも考えられるため、補助金増額等の支援を今後検討していく。	- 観光客が全体的に増加しており、馬籠線の利用者数が約3万5千人増加しており、観光客利用が増えている。欧米豪の観光客が戻ったことに加え、アジアの観光客が増えたことが原因だと推測される。 - 総合病院、地域診療所への通院により、加子母市民病院線や、恵那線（市民病院）の利用者が増加している。

■ 目標達成状況についての考察（路線別の事業評価概要）

区分	(上段) 利用人数、(下段) 達成率			主な考察・備考
	2021(基準)	2023(実績)	2024(実績)	
民間路線バス (補助系統)	253,025 -	307,675 121.6%	339,753 134.3%	○新型コロナウイルス感染症の5類移行後、利用が堅調に戻っているため前年比増加率の増加幅は減少しているが、 利用者数は全体的に増加している 。 ○観光客が全体的に増加しており、 馬籠線 の利用者数が 約3万5千人増加 している。
民間路線バス (非補助系統)	154,995 -	208,388 134.4%	226,129 145.9%	△ 総合病院、地域診療所への通院により、加子母市民病院線、恵那線（市民病院）の利用者が増加している。
自主運行バス (廃止代替バス)	49,621 -	68,050 137.1%	63,290 127.5%	○小学生や高校生が通学、帰宅に利用できる便を設定した地区（坂下・阿木）では、 学生の利用により 、堅調に推移している。 ○ 通院・買い物ができる路線に再編 した神坂地区では、 利用が急増 した（0人⇒81人）。
自主運行バス (コミバス)	19,623 -	22,062 112.4%	23,453 119.5%	○チラシの全戸配布によるPR、区長会での試乗、サロンへの移動利用等、 利用の機会を創出 し、全体的に利用が増えた。 △通学利用がある地区とない地区では、利用の差が激しい。 × 頻繁に利用していた方が利用しなくなる。（ 利用者の高齢化 。認知症、施設へ入所、死亡など）
明知鉄道乗車数 (阿木・飯沼駅)	35,352 -	50,735 143.5%	57,305 162.1%	○新型コロナウイルス感染症の影響により約68,000人から約35,000人まで利用が減少したが、5類移行後回復しており、 コロナ前の約8割にまで回復 。 ○令和4年度から高校生通学バス補助金の拡大により、阿木地域の定期利用者が増えた。
合計	512,616	656,910	709,930	【参考】住民基本台帳人口（9月末） 2021（基準）76,553人 2023（実績）74,601人（▲2.5%） 2024（実績）73,750人（▲1.1%）

コミュニティバスの利用増加

楽しいおでかけをPRし、コミュニティバスの利用に繋げる

現状

- ・ 新型コロナウイルス感染症拡大前と比べて、コミュニティバスの利用は回復。
- ・ **通学利用の定着**が利用回復の要因。

課題

- ・ 通学便がない地域においては、利用が低調。
⇒ **日中の時間帯に利用してもらう仕組み**が必要。

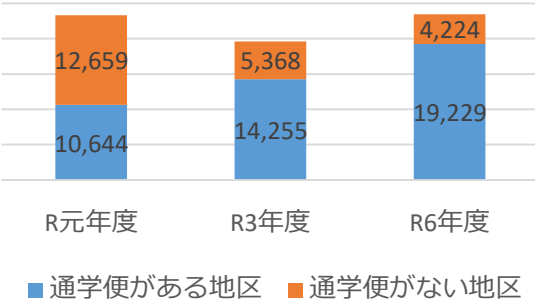
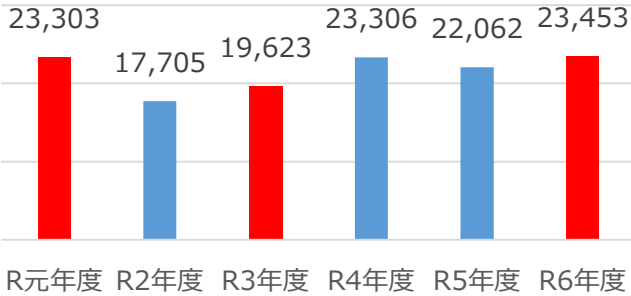
対応

- ・ 落合地区、福岡地区において、無料キャンペーンの実施、**おでかけレポーター**を作成。
- ・ キャンペーン期間中は、**一時的**な利用増加に繋がった。特に落合地区は地域の関心度も高く、団体利用に繋がった。
- ・ その後は**利用は落ち着いてしまったものの**、**新規利用獲得の一助**になった。

落合	R5年度	R6年度	福岡	R5年度	R6年度
9月	41人	43人	9月	41人	56人
10月	45人	156人	10月	55人	61人
11月	29人	48人	11月	35人	47人

今後

- ・ 無料キャンペーン、おでかけレポーターの作成・発信を今後も行い、少しでも利用増加に繋がる取り組みを続けていきます。
- ・ 地域の声に耳を傾け、ニーズの高い目的地の設定、路線バスとの円滑な乗り継ぎができるよう、適宜再編していきます。

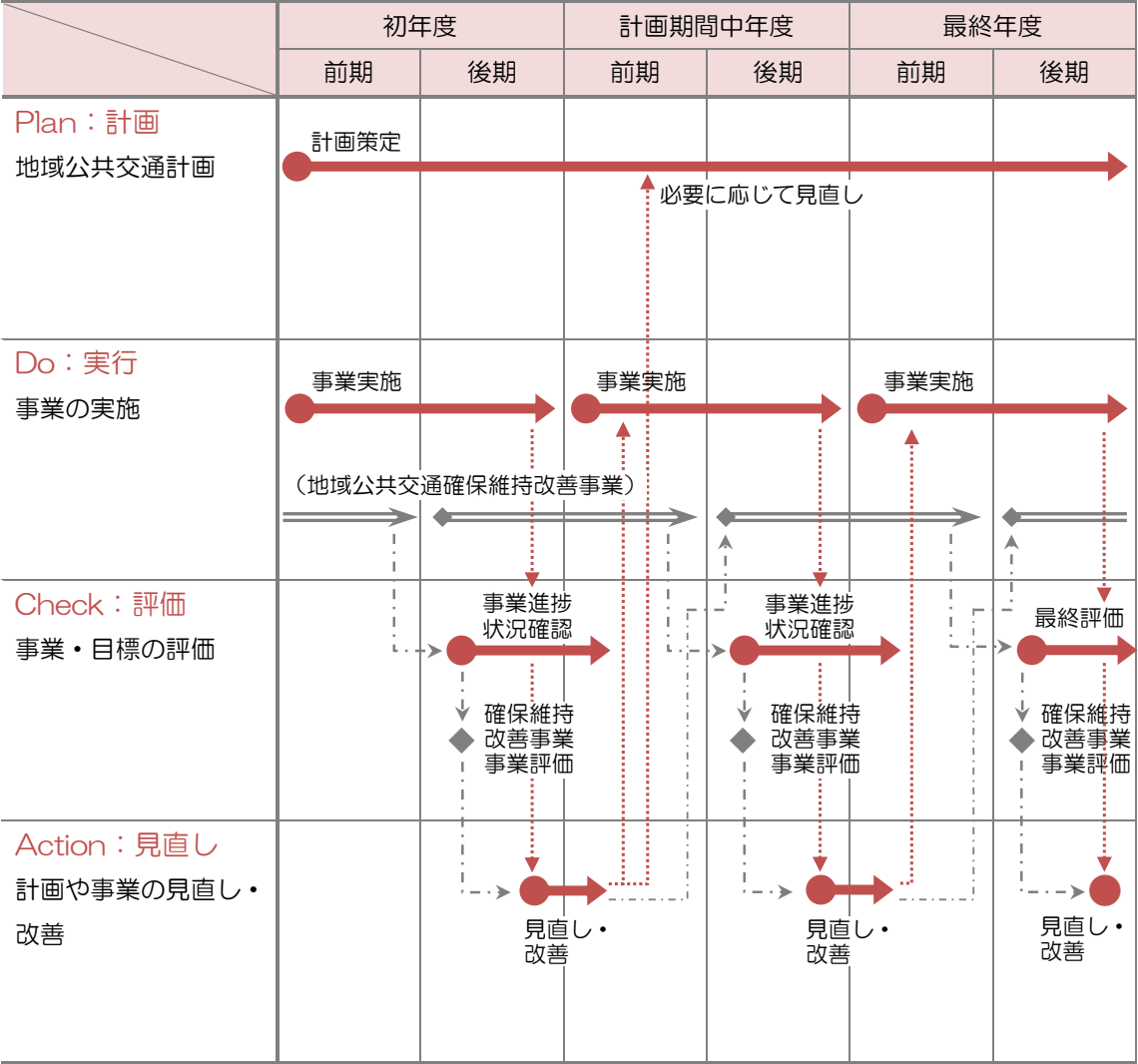


年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回	・コミュニティバス無料定期券の配布について、その後の行動変容に繋がった等の効果検証をし、活用することを期待します。 ・落合地区コミュニティバスの再編について、ニーズの高い目的地や乗り継ぎの円滑につながることを期待します。 ・コミュニティバスの利用増に向けて、各地区の魅力も合わせてPRすることを期待します。	・今回も無料キャンペーンを行い、期間後の利用推移から、一定の新規利用に繋がったことを確認。合わせてアンケートを実施しました。 ・地域と協議し、ニーズの高い目的地を追加し、新たに路線バスに乗り継ぎできるようバス停を設置しました。 ・当市のコミュニティバスのメインターゲットは地元住民であることを踏まえ、地域の魅力ではなく、「コミュニティバスを使ったおでかけの仕方（おでかけレポーター）」を合わせてPRしました。	・アンケート結果から、現在の満足度、ニーズを確認。今後の再編に活かします。 ・ニーズの目的地が好調に利用されていることを確認しています。今後も利用状況を注視しながら、目的地の要望があった際は柔軟に対応してまいります。 ・今後も各地域に合ったおでかけレポーターを提案していき、コミュニティバスの利用増を図ります。
前々回	・福岡地区及び蛭川地区の路線の見直しを行い、利用目的や利用したい施設等ニーズに合わせた公共交通に再編したことを評価します。 ・官民共同で新たなモビリティサービス「付知bin」の社会実験を行い、自動運転など新たな輸送サービスにつながる取り組みを行っていることを確認しました。	■コミュニティバスの再編 ・各地域の実情に応じ、ミーティングポイントの新設、廃止など、柔軟に対応しました。 ■自動運転「付知bin」 ・10月18日～29日に実証実験を行い、延べ617人の利用がありました。	■コミュニティバスの再編 ・今後も各地域の運行状況を注視し、適宜路線の改変、バス停（ミーティングポイント）の設置及び廃止を検討します。 ・コミュニティバスのおでかけレポーターを地域ごとに作成、PRするなど、利用者数の増加を図ります。 ■自動運転「付知bin」 ・既存の公共交通との連携の可能性を検討します。

※前回：令和6年3月21日、前々回：令和5年3月10日

■ 地域公共交通計画・目標の評価スケジュール及び直近の公共交通会議開催状況

● 本計画及び目標の進捗状況は、次の評価スケジュールに基づき進めます。



【公共交通会議実施状況】

第1回 令和6年6月12日

議題 1
落合地区コミュニティバスの再編について

承認

議題 2
生活交通確保維持改善計画について

承認

第2回 令和6年1月15日

議題 1
地域公共交通確保維持改善事業に関する自己評価について

承認

各回の冒頭には、各交通事業者から現在の状況に関するフリートークを実施。
⇒市内交通事業者が抱える問題、悩みを共有する場になった。